

太平洋クロマグロ2017年生まれ 加入量モニタリング速報 (第3報 2018年5月)

国立研究開発法人
水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

- 九州西で操業した曳縄モニタリング船※¹の11月～翌年2月※²のCPUE※³（漁獲努力量当たり漁獲尾数）を、2017年生まれ群※⁴の加入動向の指標として分析した。
- 2017年生まれ群のCPUEは、2011～2016年平均の198%、前年の135%であり、2011年以降最も高い。
- 上記から、2017年の加入は、これまでの調査期間（2011年～2016年）よりも高水準である可能性が高い。

(※1) 長崎県対馬・五島周辺で操業したモニタリング船の操業データを使用した。

(※2) 例年11月～翌年2月のデータを使用しているが、2017/18年漁期では、当歳魚を対象とした操業が11～12月にのみ認められた。

(※3) 月や海域の効果を考慮した標準化処理を行った。

(※4) 九州西海域で漁獲される太平洋クロマグロの当歳魚の群れは、南西諸島海域及び日本海それぞれの産卵場で生まれた群が混合して構成されていると想定している。

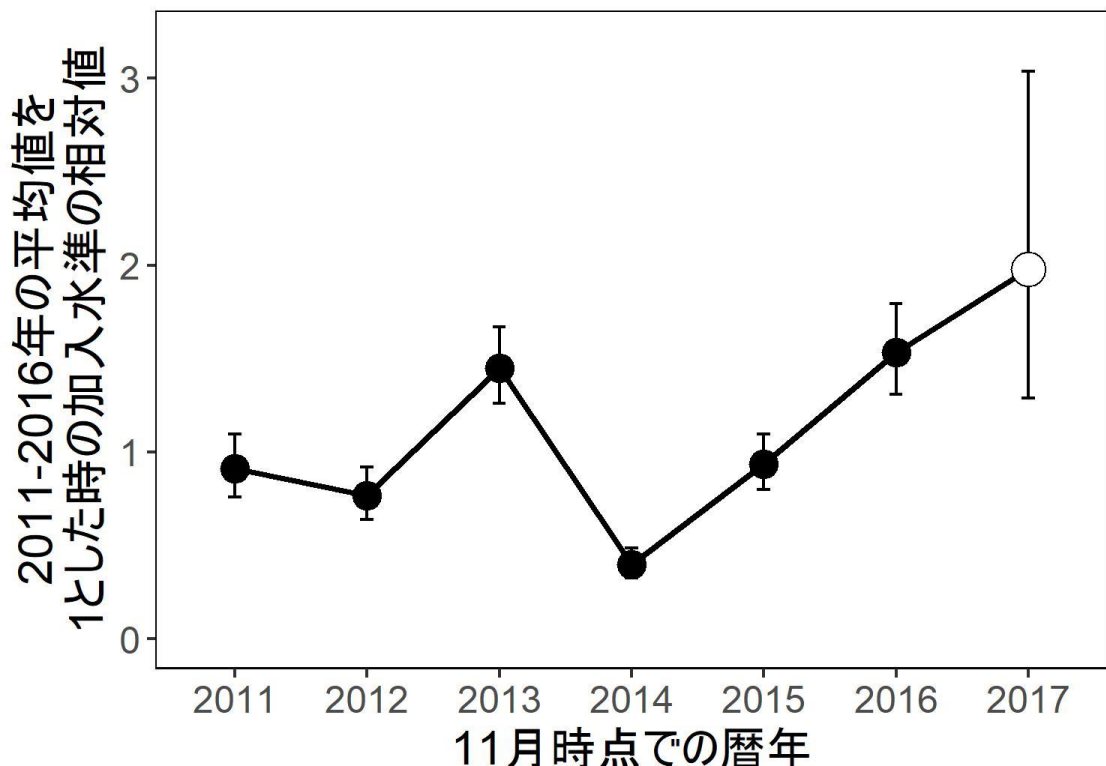


図. 九州西の曳縄モニタリング船の11月～翌年2月のCPUEの相対値。
図中の垂線は95%信頼区間を示す。